

法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学
「就業力を育てる3ステップシステム」
プロジェクト
<http://3step.hosei.ac.jp/>

文部科学省『大学生の就業力育成支援事業(就業力GP)』採択プロジェクト

新たな教材づくりに取り組んでいます

教授 藤村博之 (ふじむら ひろゆき) プロジェクトリーダー

働くことを学生に伝える手段

今回の就業力育成支援事業では、日々受けている講義やゼミが働くようになって必要とされる能力と結びついていることを基本に据えています。ただ、私たち教員が「この勉強は、将来きっと役に立つから」と何度繰り返しても、実際の仕事を体験したことのない学生には、ピンと来ないのが実状です。

これまで、私は、NHKのドラマ『グッジョブ』を使って、学生に人々が働く姿を伝えようとしてきました。このドラマは、かたおかみさおの同名のコミックを原作として、2007年に放映されたもので、現在ではDVDで観ることができます。

物語の舞台は中堅建設会社で、その営業2課に働く上原草子(通称「上ちゃん」;松下奈緒)が同僚たちと繰り広げる物語です。営業事務といういわゆる一般職の女性たちが主人公なのですが、実は彼女らの力があってこそ、男性営業マンが外で思う存分力を発揮できることが巧みに描かれています。30分で一話が完結し、全5回で構成されています。

ドラマを観てディスカッション

このドラマを学生に見せて、なぜ彼女たちが問題を解決できたのか、誰がどのような役割を担っていたのか、誰の行動が最も印象に残ったか、といったことを5人くらいのグループで議論させます。学生たちは、同じドラマを観ても人によって感じ方が違うことや注目する点異なることを学びます。そして、働く上で必要な知識や技能の一端を垣間見て、講義との関連性を感じることができます。

私が自分の講義で使うのであれば、著作権の問題はまず発生しません。しかし、これを本学の教員全体で使ってもらおうとか、本学が開発した教育方法を他の大学にも公開するとなると、著作権をクリアしなければなりません。だいぶ面倒そうです。はたと困りました。そこで考えたのが、「自分たちで教材をつくる」ことです。

ドラマをつくる

でも、ドラマをつくるって莫大なお金がかかるのではないだろうか—アイデアは出したものの、予算制約でダメかなとあきらめかけていました。そんなとき、「最近では以前ほど高くないみたいだよ」という話を友人から聞きました。調べてみると、確かに10年前の5分の1くらいでできるようになっています。

そして、本学だけでなく日本全国の大学で使える教材づくりが始まりました。食品会社に機械設備を納入している会社の営業マンを主人公にしたもの、旅行代理店に勤める女性営業社員を主人公にしたものなど、少しずつ具体化しています。来年度から先生方に使っていただけるように、鋭意取り組んでいます。どうぞご期待ください!



略歴

84年名古屋大学大学院卒
京都大学博士(経済学)。

84～89年京都大学経済研究所助手、90～97年滋賀大学経済学部助教授・教授。

97年～03年法政大学経営学部教授、04年～IM研究科教授。

e-mail:

fhcdc@hosei.ac.jp

研究室は新一口坂校舎4F



前期授業を終えて

特任教員 白井 章詞 (しらいししょうじ)

キャリアデザイン入門では、講義形式で基礎理論を学んだのち、グループワークや質的調査を実施している。前期の授業を終えて私が気づいたことは、「筆記試験」と「研究成果」の出来栄には正の相関が見られること。それらは「出席」とも正の相関が見られる。当然と言えばそれまでだが、正課として“キャリア教育”が導入された背景を考えれば、大学で学ぶことの意義が見いだせていない学生をそのまま放置し、自己責任という言葉で片づけることは望ましくないだろう。後期は、Careerという言葉を使って、さまざまな学問を学ぶことの面白さや社会的意義を一人でも多くの学生が感じられるような授業を目指したい。

略歴 法政大学大学院経営学研究科キャリアデザイン学専攻(修士)卒業後、法政大学大学院政策創造研究科博士後期課程に進学。
2011年3月、同博士課程中退。



学生に「応える」、双方向授業を！

特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)

前期の授業を終え嬉しかったのは、期末テスト受験者数が192名、木曜1限での授業全15回の出席率が97%(平均出席者数186名)であったことと、学生達からの「楽しかった」「役に立った」という反応です。これは、リアクションペーパーに書かれた内容に対し次回の冒頭でフィードバックを丹念に行う双方向授業で学生に応えたことや、毎日の出来事を題材に授業を進めたことが喜ばれたのだと感じます。先ず「自分を知る、自分を認める」ことが全てに繋がるとしてグループワークにも取組ませ、リアクションペーパーには「自分の考え」を書かせるようにも努めました。これから、この取組み方を全国に広げる役割を、自ら担いたいと考えています。

略歴 70年慶応義塾大学経済学部卒。
70~06年伊藤忠商事(株)勤務、06~11年帝京大学と法政大学職員。
11年~法政大学教員



姿勢を大切に

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)

「前向きな人間性」、それは採用選考基準の基本です。どんなに成績が良くても、どんなに対人スキルに秀でていても、これが無ければ最終的に内定をだすわけにはいきません。故に、私は学生の「授業に対する姿勢」を重視しており、シラバスの評価項目にも明記しています。これは、物理的な座る場所・姿勢・態度の点と、精神的な前向きさ・素直さという点です。前者は講義中の観察で、後者についてはリアクションペーパーでわかります。しかし、前期授業を終えて実感したのは、こちらが当たり前と思っている「受講態度」が、学生達にはそうではないということです。厳しい採用選考をパスして入って来た社会人の研修とは違う点を、改めて認識させられています。

略歴: 日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

◆「就業力養成ゼミ」を開講します

後期より市ヶ谷キャンパスにて「就業力養成ゼミ」が行われます。

法政大学が考える「3つの就業力」(文章作成力/情報収集・分析・発信力/状況判断・行動力)を中心とした課題のグループワーク・アセスメントテストを取り入れた、特別講座となります。企業と大学の現場を知る有田講師が、学生の実力を引き出します。

◆活動報告

法政大学「就業力GP」では現在、オリジナルで就業力を測定するツールを業者と共同開発中です。

また、表面の記事にて藤村教授が報告致しましたが、働く場面を実感させるビデオ教材の開発にも着手し、準備を進めています。ホームページもリニューアル計画中です。新しいページでこれらの取組みをご案内していきます。

◆編集後記:

猛暑の谷間となった8/21・22のオンキャンで、我がGPの高校生向け企画「キャリアガイダンス」全4回が終了しました。

オンキャンとしても初めての「連続参加企画」でしたが、皆勤賞の方も結構居て満足度も高かったようです。

「正解は1つでないのが大学の授業」という先生の言葉に、(大学出てからもそうだよ…むしろ社会も人生もそれが普通だから…)と、47歳の私は生温かい視線を高校生に向けてしまいました。 < 事務局: 細田 >

「就業力を育てる3ステップシステム」プロジェクト (事務局: 学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: <http://3step.hosei.ac.jp/>

就業力を育てる**3ステップシステム**
文部科学省「大学生の就業力育成支援事業(就業力GP)」採択プロジェクト